

今日の説教のポイント <マタイによる福音書 12章 9～14 節>

①安息日が安息でなくなるなら、どこかが変なのです。

先週は、信仰を持つのは正しさを追求するためではないことを学びました。続く今日の個所でもまずそのことを思います。安息日は人のためにあるのです(マルコ 2:27)。聖書の神様は、私たちがまず生を喜び、神様に感謝して生きていることを望まれています。いくら正しいことを追求して生きても、他人を見る目が厳しくなったり、自分はだめな人間だと思いながら生きるなら、神様は悲しまれるのです。

②イエス様は誰もが持っている優しさに注目されています。

「安息日に癒しの行為をしてはならない」と迫るファリサイ人に対して答えられたイエス様の言葉に驚かされます。誰もが持っている優しさに訴えかけられたからです。「あなたたちのうち、だれか羊を一匹持っていて、それが安息日に穴に落ちた場合、手で引き上げてやらない者がいるだろうか」(11)。私たちは、本来は誰もが持っている優しさをいつの間にか出せなくなっていたのではないかと、そう思われるお言葉です。では、どうしたら取り戻せるのでしょうか？

③律法に制限されず、むしろより高い所から律法を完成されるお方！

「人間は羊よりもはるかに大切なものだ。だから、安息日に善いことをするのは許されている」(12)。威厳を感じると同時に、「私は生きていいのだ！」と思わされる主イエスのお言葉です。どちらの律法解釈が正しいかなど問題とされず、より高い所から答えられている感じがしますが、その通りなのです！ 主イエスはこう言われるお方だからです、「私が来たのは…(律法を)完成するためである」(5:17)。この方こそ神様の御旨を告げるために来られたお方なのです！

④神に立ち帰り、神と共に生きること。そこに真の安息がある！

ファリサイ人は主イエスを殺す相談に入ります！(14)。それは、私たちが大事な存在と告げて下さるお方に背を向けて生きる果てにある人間の姿です。神様抜きで生きようとするときに、人は不安の中に置かれます。しかし、神様と共に生きるときに、人は帰るべき所に帰って来た安らぎを得るのです(アウグスチヌスの告白)。安息日とは、この安らぎを覚え直すために神様が用意して下さった日なのです！